市民学コース　富士見市の歴史　　定員５０名

富士見市が歩んだ50年

～自分史の半世紀を顧みるために～

第４回　地域の学びと文化の継承・創造

日時　　11 月 25 日（土）10:00～12:00
場所　　鶴瀬公民館第三集会室
講師　　田ノ上和宏氏
　　難波田城資料館
　　文化財資料整理専門員
受講者数　１６名

報　　告　小原　裕　；加藤久美子

講師　田ノ上和宏 氏

○　講座担当理事の世羅陽一郎氏の司会で講座が始まりました。

講義内容

第１部

１．内容の精査

富士見市における「新住民」の誕生・団地開発→「地域住民」の誕生？

２．社会教育への着目

社会教育の最重要テーマの一つが新旧住民の融和の促進だった。
ここで改めて社会教育とは：学校の教育課程に基づく教育以外の青少年及び成人に対して行われる組織的教育活動

一方、生涯学習とは：学校教育や社会教育以外による学習、組織的に行われない学習も含むもの
大同博教育長（昭和３９・１９６４年）就任、社会教育専門職採用など学校教育と同様に扱う。
他に、「人間尊重宣言」教育正常化運動、公民館の 6 館体制、各館に常勤の公民館主事の配置と職員増。

↓

一定の教育実践が可能になる

↓

新住民と旧住民による学習活動、文化の継承と創造へ？

３．富士見市の社会教育関連事項年表を参照しながら講師より説明

４．事例紹介　　渋谷定輔と社会教育

① 昭和 44 年（１９６９）初夏「農民哀史」の関係で、社会教育職員との出会いがあった。
② 昭和 45 年（１９７０）社会教育課主催で「農民哀史の著者を囲む会」が鶴瀬団地集会所で開催→「農民哀史を読む会」が発足、現在は解散。
③ 昭和 49 年（１９７４）蒲池紀生、渋谷定輔の提案で「南畑の歴史を考える農民と市民の集い」開催。
④ 昭和 50 年（１９７５）渋谷定輔の提案で、考古館・南畑公民館共催で「富士見市農具展」開催。
⑤ 昭和５１年（１９７６）南畑公民館職員が夏休みに南畑の農家に分宿する「夏休み子ども教室・南畑たんけん」を立案、渋谷定輔も協力。当時の鶴瀬団地の自治会長

をしていた小口益一の提案で団地の子どもも参加、交流がかなった。

⑥ 渋谷定輔と公民館職員と蒲池紀生が長野県へ行き、かつてあった「信濃自由大学」に倣って昭和 51 年（１９７６）「お年寄りのつどい」を企画実施。
同年 9 月「富士見市こうれい大学」が設立される。
大学受講者の増大と一般市民の要望もあり
昭和 53 年（１９７８）「富士見市民大学」が設立される。

それぞれの取り組みは地域、新旧どちらでも参加できる。そこに社会教育で求められる「環境醸成」がなされているともいえる。

５． 休憩

〇スライドを見ながら手元の資料も参考にして傾聴する参加者のみなさん

第２部

６．社会教育活動の記録映像から

① 富士見市文化財カルタに関するもの（１９７３年）　共同テレビジョン　約５分
　郷土めぐり富士見市（１９７５年）　読売映画社　約９分

② 富士見市文化財カルタを含む広範囲にわたるもの
　富士見市立図書館・テレビ埼玉・ふじみビデオクラブ　約２０分

新住民と旧住民による学習活動、文化の継承と創造とを見る。
映像内容は、版画家小口益一氏から版画技法を学び、郷土カルタづくりと実際に子どもたちとカルタ取りをしている場面がある。
扇だこの継承など当時の新旧住民が学びあっている活動が展開されていた。

背景に第１、第２団地の完成による人口増があげられる。また、それまでの首長が１９７１年に汚職問題で辞職し、革新系の市長が当選した背景は、新住民が積極的にかかわったという意見もあった。

市内団体にみられる活動理念や新旧住民の交流の拠り所になるものの紹介

〇富士見文化財かるた
〇人間尊重宣言
〇富士見太鼓の会
〇人形劇グループどん
〇扇だこの伝承
〇子どもフェスティバル
〇湧き水の会
〇獅子舞保存会
〇南畑お月見一座

７．結び　これらの事例から見えてくるもの

・地域住民とは　　例として図書館資料にみる
・地域の学びの主役（主役）は皆さん、社会教育に携わる職員は「黒子」である
・映像・文字・・・何らかの形で残すことで後世に伝わり、論票の俎上に載せられる
・今日の「新」「旧」は？今でも新たな形で、二元化は極論である？

添付資料

2023 年 11 月 25 日　難波田城資料館(田ノ上)

富士見市が歩んだ 50 年　第 4 回
市域(地域)の学びと文化の継承・創造

(第一部)

1. 内容の精査

富士見における「新住民」の誕生(団地開発)　⇔「地域住民」の誕生？

↓

『富士見外出身者(いわゆる「新住民」)』⇔『富士見市出身者「旧住民」』i

※ふじみ社会教育だよりの表現も同様

↓

「新住民と旧住民による学習活動、文化の継承と創造とを、記録映像を用いながら振り返る」

※「地域住民」については後述。

※参考データ※

表　富士見村・町の地区別人口の変遷(昭和32年～47年)

(毎年4月1日現在、単位：人　%は全人口に対する構成比

年	鶴瀬地区		南畑地区		水谷地区		合計(人)	対前年比増	備考
	人口	%	人口	%	人口	%			
S32(1957)	4,539	41.8	3,660	33.7	2,660	24.5	10,859		第一団地完成
S33(1958)	5,414	46.2	3,653	31.2	2,651	22.6	11,718	**7.91**	
S34(1959)	5,539	47.0	3,597	30.5	2,647	22.5	11,783	0.55	
S35(1960)	5,685	47.8	3,585	30.1	2,626	22.1	11,896	0.96	
S36(1961)	5,968	49.1	3,563	29.3	2,628	21.6	12,159	2.21	
S37(1962)	6,474	51.0	3,527	27.8	2,684	21.2	12,685	4.33	第二団地完成
S38(1963)	10,742	62.6	3,480	20.3	2,943	17.1	17,165	**35.32**	
S39(1964)	12,303	64.7	3,493	18.4	3,223	16.9	19,019	10.80	
S40(1965)	14,574	66.9	3,524	16.2	3,683	16.9	21,781	14.52	
S41(1966)	17,292	66.9	3,503	13.5	5,069	19.6	25,864	18.75	
S42(1967)	21,024	68.3	3,509	11.4	6,253	20.3	30,786	19.03	
S43(1968)	25,300	69.9	3,557	9.8	7,338	20.3	36,195	17.57	
S44(1969)	29,803	70.4	3,611	8.5	8,914	21.1	42,328	16.94	
S45(1970)	34,503	70.8	3,725	7.6	10,530	21.6	48,758	15.19	
S46(1971)	38,601	70.7	3,937	7.2	12,086	22.1	54,624	12.03	
S47(1972)	41,782	70.5	4,155	7.0	13,328	22.5	59,265	8.50	

※市史通史編下巻489頁表11を一部改変し使用。

表　富士見市(町・村)の議会議員の内訳推移

選挙年	保守派			中間派			革新派			合計		
	新	旧	計	新	旧	計	新	旧	計	新	旧	計
昭和32 (1957)	1	25	26	0	0	0	0	0	0	1	25	26
昭和36 (1961)	2	24	26	0	0	0	0	0	0	2	24	26
昭和40 (1965)	4	21	25	0	0	0	1	0	1	5	21	26
昭和44 (1969)	5	21	26	1	1	2	2	0	2	7	22	30
昭和48 (1973)	4	14	18	3	1	4	8	0	8	15	15	30

出典：蒲池紀生(1976)

※また首長も昭和 46 年（1971）までは旧住民であった。市制施行直後に汚職問題で辞職。その後革新系の市長が当選。この間の政治運動に新住民が積極的に関わったことが結果として選挙の結果などにも影響したという意見もある。

2. 社会教育への着目

蒲池紀生（かまちのりお）：公団在住・東洋大学講師〔社会学部・工学部〕（当時）
「新住民がまだ少なく、少数派(マイノリティ)だったころから、旧住民は新住民を“よそ者”とか“来たり者”とか呼んでいた。」[ii]

⇩

富士見市では
「新・旧両住民の融和の促進」→「社会教育」の最重要テーマの一つ[iii]

社会教育：「学校の教育課程に基づく教育以外の青少年及び成人に対して行われる組織的教育活動」
※生涯学習：「学校教育や社会教育による学習、組織的に行われない個人学習も含むもの」

・大同博教育長(昭和 39・1964 年就任)：社会教育専門職の採用など社会教育と学校教育とを同様に扱う
　※他に「人間尊重宣言」、教育正常化運動(ラン廃等)など
・公民館→南畑、水谷(基準満)。鶴瀬、鶴瀬西、水谷東、勝瀬。(市制以降に改善されていく)昭和 45 年(1970)には各館に常勤の公民館主事が配置される。その後も職員増。

⇩

一定の教育実践が可能に

⇩

新住民と旧住民による学習活動、文化の継承と創造へ？

3. 富士見市の社会教育関連事項年表

年	月	事項
1956(S31)	9	**富士見村誕生**
1957(S32)	11	日本住宅公団鶴瀬第一団地入居開始
1962(S37)	7	日本住宅公団鶴瀬第二団地入居開始
1964(S39)	4	**町制施行**
1964(S39)	12	大同博教育長就任
1966(S41)	7	社会教育・社会体育専門員採用
1966(S41)	9	人間尊重都市宣言
1967(S42)	1	「富士見町音頭」が発表
1970(S45)	2	渋谷定輔『農民哀史』刊行
1972(S47)	4	**市制施行**
1972(S47)	11	富士見文化財かるた発表
1973(S48)	8	市立考古館開館
1973(S48)	12	『富士見のさんぽ道』刊行
1974(S49)	6	人形劇グループ「どん」発足
1974(S49)	12	第一回子どもフェスティバル実施
1974(S49)	12	南畑の歴史を考える農民と市民のつどい 開催
1975(S50)	3	富士見市農具展 開催
1975(S50)	7	「ふじみおどり」が発表
1976(S51)	6	お年寄りのつどい 開催
1976(S51)	8	第一回夏休み子ども教室・南畑たんけん実施
1976(S51)	9	富士見市こうれい大学設立
1977(S52)	2	「扇だこ」講習会実施(4月に保存会設立)
1977(S52)	10	富士見おやこ劇場設立
1978(S53)	1	富士見太鼓の会発足
1978(S53)	12	富士見市民大学設立
1979(S54)	3	『お年寄りの語る郷土の昔話』刊行
1979(S54)	3	『ふじみの伝説昔ばなし資料篇(一)』刊行
1980(S55)	3	『ふじみの伝説昔ばなし資料篇(二)』刊行
1980(S55)	3	『富士見風土記』刊行
1983(S58)	3	考古館友の会(拓本・土器づくり)設立

4.事例紹介　渋谷定輔と社会教育[iv]

①昭和 44 年(1969)初夏『農民哀史』の口絵写真撮影の際に 2 人の社会教育課職員が渋谷定輔と出会う。

②昭和 45 年(1970)社会教育課主催で「農民哀史の著者を囲む会」が鶴瀬団地の集会所で開催→その後、団地では「農民哀史を読む会」(毎月第一、三金曜午前中、大学教員 1 人、主婦 16 人が参加。33 回まで)が行われる。

③昭和 49 年(1974)南畑公民館職員(①で出会った 1 人)、蒲池紀生、渋谷定輔、3 人の発案で、農民と市民をつなぐべく「**南畑の歴史を考える農民と市民のつどい**」を開催。

④渋谷定輔が考古館に収集され始めている民具(農具)を見て「農具展」の実施を提案→昭和 50 年(1975)3 月考古館・南畑公民館共催で「**富士見市農具展**」が開催される。

⑤南畑公民館職員が昭和 51 年(1976)、夏休みに地域の家庭に分宿する企画(**夏休み子ども教室・南畑たんけん**)を立案。渋谷定輔もその事業に協力。また当時鶴瀬団地の自治会長をしていた版画家小口益一(おぐちますいち)の提案で、団地の子どもも参加、交流する形になる。

⑥渋谷定輔と公民館職員、蒲池紀生の 3 人が長野県へ。そこでかつて行われていた「信濃自由大学」影響を受ける(渋谷定輔は既に若い頃「信濃自由大学」の関係者の 1 人である土田杏村(つちだきょうそん)と交流があった)。公民館職員は昭和 51 年(1976)6 月に「**お年寄りのつどい**」を企画・実施。さらに渋谷定輔、蒲池紀生らは講師陣を集めるなどしてこれを発展させていった結果、同年 9 月「**富士見市こうれい大学**」が設立される。こうれい大学は好評で 2 年次のコースも設けたが、それでも収まらず、また一般市民からの要望もあり、昭和 53 年(1978)「**富士見市民大学**」が設立される。

↓

それぞれの取り組みは、実施主体(地域)が新・旧どちらでも、互いに参加できる形で行われている。※そこに社会教育で求められる「環境醸成」が為されているとも言える。

10 分休憩

（第二部）

6. 社会教育活動の記録映像

①富士見文化財かるたに関するもの
1)『「No.145 古代の住居跡／文化財かるた」（こんにちは埼玉）』(1973)共同テレビジョン(約 5 分)
2)『「郷土めぐり　―富士見市―」（埼玉だより）』(1975)読売映画社(約 9 分)
②富士見文化財かるた含め広範囲にわたるもの
3)『市民によるまちづくり～市民活動の創始者たち～ 1980(昭和 55 年)～1998(平成 10 年)』(2022)富士見市立図書館・テレビ埼玉・ふじみビデオクラブ(約 20 分)

↓

〇富士見文化財かるた：団地の住民(新住民)が、市内全地区(旧住民在住の地区含む)を対象として、旧い歴史、文化を記録し普及させている。
〇人間尊重宣言：新旧住民が共に楽しく暮らしていくためまちづくりのスローガンに
〇富士見太鼓の会：健康増進をきっかけに。旧くは囃子が残り、大太鼓の伝統がないところに新たにそれを根付かせようとする動き。旧住民である囃子連の人もリーダーとして参加。
〇人形劇グループ「どん」：新住民が旧く富士見に伝わった伝統を根付かせようとしている。
〇扇だこの伝承：鶴瀬の旧住民が市民に江戸時代からの伝統がある扇だこの文化を伝えようとしている。新旧住民の交流。
〇子どもフェスティバル：人形劇グループ「どん」や版画の会等複数のグループが集まり、全市的規模で実施。
〇湧き水を考える会：その土地特有の自然を活かしまちづくりに活かしていく。
〇獅子舞保存会：地域の文化伝承に関わる。また地域の特徴を作る役割を果たす。
〇南畑お月見一座：南畑在住にこだわり、それを売りにし、文化の発信を続ける。

7. 結び　これらの事例から見えてくるもの

・地域住民とは？（例：図書館に見る「郷土資料」と「地域資料」）
・地域の学びの担い手（主役）は皆さん。社会教育に携わる人間は「黒子」（環境醸成[v]につとめている）。
・映像、文字…何らかの形で残すことで後世に伝わり、論評の俎上に載せられる。
・今日の「新」と「旧」は？　まだある？　新たな形で？　二元化は極論であ

---

[i] 市史通史編下巻 494－495 頁
[ii] 蒲池紀生(1976)『昭和の民族大移動：近郊・新土着の思想』102 頁
[iii] 市史通史編下巻 531 頁など
[iv] 若槻英隆(1998)「渋谷定輔の富士見市における社会教育実践」北田耕也他編『地域と社会教育　伝統と創造』186-205 頁
[v] 社会教育法第 3 条

報告
小原　裕
加藤久美子